**森聡研究会**

**―現代国際政治―**

**＜2022年度新設＞**

**2021.12.11改訂**



**・森先生より**

　2022年度に「現代国際政治」ゼミを新設します。第1期生を募集します。

　当ゼミでは、国際政治の最先端のテーマを題材に、皆さんにゼミで研究に取り組んでもらうことによって、学問を楽しみながら、社会人として独り立ちするのに必要な問題解決能力を高めてもらうことを最大の狙いとします。

2022年度のゼミで扱う全体テーマは、「米中関係と国際秩序」とします。当ゼミは、アメリカのバイデン政権の外交と世界戦略を追いながら、国際政治学の最新の文献を読み、チーム（①アメリカ班、②中国班、③日本班、④東南アジア班、⑤欧州班、⑥グローバルガバナンス班）に分かれて調査・分析を行って、ゼミ生が自分なりの問いを立てて、その答えを導き出す研究を行うことを目的とします。当ゼミは、米中関係に軸足を置きつつ、それが日本や東南アジア、ヨーロッパといった諸地域、さらには国際機関での多国間外交などとどのように相互作用しあうのかに目を向け、調査・研究活動を行います。

国際政治の現実を冷静に見つめつつ、1年間かけて皆さんと様々な「問い」について議論し考えたいと思います。問いを立てて、単なる思い付きで議論するのではなく、国際政治の歴史と理論から学びながら、国際関係の構造とプロセス、そして文脈を見極める力を身につけ、「問い」を立てる力、論理的に考える力、多角的・複眼的にものをみる力、そして試行錯誤しながら自分で答えを導く粘り強さを養って欲しいと考えています。

このような訓練を積むことによって、社会人になってからも活きるような、物事の原因や問題のありかを突き止めて、それに対処するための行動を起こすのに必要な、実践する力を身につけてもらえればと思います。私がかつて国家公務員として外務省で実務を手掛けていたこともあり（プロフィールは下記参照）、学問を通じて深く思考することはもちろん、実践も重視して、様々な力を身に付けてもらえるようなゼミにできればと考えています。こうした観点から現実世界との接点を持つために、外交・防衛・報道など各種業界の実務家を招いて懇談会を開いたり、他大学との合同ゼミを開催して大型の外交シミュレーションを実施したり、状況が許せば、調査・考察の結果を海外の現場で確かめる海外自主調査旅行にも出かけ、学外で刺激を受けて視野を広げる機会も設ける予定です。

　当ゼミは、今回第1期生を募集しますが、ゼミの仲間たちと楽しみながら自分を鍛えたい、和気あいあいとしながらも真剣に学問に取り組みたいという意欲ある学生諸君を歓迎します。国際政治の専門知識は一切問いません。卒業する時に、「大学在学中に、その当時の先端をいく国際政治のテーマについて学び、同世代の誰にも負けないほど研究した」と自負できるようになりたいと思う人に履修してもらいたいと思います。社会人になるにあたって身につけるべき基本的なマナーや心がけなども日頃から指摘します。

**・研究対象**

　現代国際政治、先端技術と安全保障、現代アメリカのアジア戦略、冷戦期アメリカの戦略史など。

**・ゼミの構成**

　第1期生として12名程度を予定しています。

**・他学部生の受け入れ可否**

　可能です。（所属学部のゼミとの兼ゼミは不可とします）

**・留学から帰ってくる学部生の扱い**

　教員にまず連絡を取り、入ゼミ課題と面接を経て、入ゼミを許可する場合があります。

**・ゼミの進め方**

　毎週のゼミでは、米中関係や、米中と東南アジア・日本・欧州・グローバルガバナンスに関する最新の論文・論考を1本ないし研究書の1章を取り上げ（英語文献あり）、その内容について議論を重ねます。

学期中のゼミでは、＜第1週＞にレジュメとパワーポイントに基づいたプレゼンテーションを行い、次週までの課題について検討し、＜第2週＞に前週に定めた課題について議論し総括するというサイクルを繰り返して、力を身につけていきます。自分たちで何を問うべきか検討して翌週までの課題（問い）を立て、1週間かけて考えてきて、翌週のゼミで議論してもらうという方式です。

　並行して、チーム別に担当テーマについて調査を実施してもらい、調査結果をケーススタディとしてまとめてもらい、夏合宿で発表してもらいます。（ゼミで講読する文献は、ケーススタディに関連するものとします。）

秋学期には、共通課題の短いペーパーを執筆する作業を通じて、文献調査、思考や論文の書き方などの基本的な作法を身に付けてもらいます。4年生になった際には、自分で自由に選ぶ現代国際政治に関するテーマ（制限なし）について、年度末までに研究論文あるいは政策提言ペーパーを執筆しますので、あらゆるテーマに自由に取り組むことが出来ます。

年間行事としては、夏合宿、他大学との合同ゼミ、有志学生による海外自主調査旅行などを予定しています。合同ゼミでは、外交シミュレーションを実施して、日頃から鍛錬した力を実践・発揮する場も用意します。（過去に担当していたゼミでは、台湾有事や北朝鮮核開発をテーマとしたシミュレーションなどを実施）。

**・使用文献**

**※変更する可能性あり。最新のものを選び、学期初めに確定させ指定します。**

　川島真・森聡編『アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』東京大学出版会、2020年。

　佐橋亮『米中対立』中公新書、2021年。

Ashley J. Tellis et al eds., *Strategic Asia 2020: U.S.-China Competition for Global Influence*, the National Bureau for Asian Research, 2020.　ほか

**・ホームページアドレス**

　12月19日（日）にオープンする予定です。当面はSNSでゼミ関連情報を発信しますので、応募に関心のある人はフォロー願います。

　ツイッター　<https://twitter.com/6OaHRtypzk8cZhW>

　インスタグラム　<https://www.instagram.com/keio.mori/>　※こちらに変更（12/11）

**・連絡先**

　質問や不明なことがあれば、以下のメールアドレスまでお願いします。

　教員メールアドレス　　smori★hosei.ac.jp

　（Bot対策で表記変更してありますので、★を＠に置き換えてください）

**・教員プロフィール（2022年度に着任するため掲載）**

1972年大阪府生まれ。小学生時分をロンドンで4年半、高校生時分を香港で3年間過ごす。1995年京都大学法学部卒業（国際政治学・髙坂正堯ゼミ）、同大学大学院法学研究科にて修士号取得。1995年の外務公務員I種試験（現国家総合職に合併）に合格し、翌年外務省に入省。米コロンビア大学ロースクールにて法学修士号（LL.M.）取得。NY留学、パリ勤務などを経て、2001年に外務省を退職後、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程に入学。2007年に博士（法学）取得。2006年から2008年まで東京大学大学院法学政治学研究科付属比較法政研究センター機関研究員。2008年に法政大学法学部准教授、2010年に同教授。2013年4月から2015年3月まで米ジョージワシントン大学とプリンストン大学で在外研究。2022年4月に慶應義塾大学法学部に教授として着任予定。

　現在はアメリカのインド太平洋戦略、人工知能などの先端技術が安全保障や国際政治にもたらす影響、冷戦期アメリカの国防戦略の歴史を研究中。シンクタンクの安全保障問題や現代アメリカの対外政策に関する多数の研究プロジェクトで研究委員を務めるほか、科学研究費プロジェクトにも参加。2016年から2019年まで内閣官房国家安全保障局政策参与。2018年より中曽根平和研究所上席研究員。

**【現在参加中の研究プロジェクト・研究会（2021年12月現在）】\*は主査**

1. 科研・基盤（A）「先端技術と国際秩序：革新技術がもたらす国家のパワー、権威、倫理の変容」

2. 科研・基盤（A）「現代アメリカにおける政治的地殻変動：政党再編と政策的収斂」

3. 科研・基盤（B）「米国による同盟の戦略的調整に関する比較歴史研究：脅威認識、安心供与、コスト分担」

4. 中曽根平和研究所「米中関係」

5. 中曽根平和研究所「米国政治外交」\*

6. 中曽根平和研究所「宇宙・サイバーと先端技術」

7. 日本国際問題研究所「大国間競争時代の日米同盟」\*

8. 日本国際問題研究所新「アメリカ」

9. 笹川平和財団「アメリカ現状モニター」

10. 笹川平和財団「新領域における抑止の在り方」

11. 法政大学ボアソナード記念現代法研究所「現代国際秩序における正統性の相克」\*

12. 東京大学「米中競争による先端技術の安全保障化の背景とグローバル経済への影響」

13. 慶應義塾大学「朝鮮半島の構造変動」

14. 政策研究大学院大学「インド太平洋地域における海洋安全保障」

15. 経団連21世紀政策研究所「国際秩序」

**【最近の主な著書・論文】**

* 「対中関係——3つの外交エリート勢力の『反中コンセンサス』と2つの国際主義」、久保文明ほか編『アメリカ政治の地殻変動―分極化の行方』、東京大学出版会、2021年。
* 「アメリカの対中アプローチはどこに向かうのか―その過去・現在・未来」、川島真・森聡編著、『アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』、東京大学出版会、2020年、47—74頁。
* 「政治の分極化と対外関与負担の抑制―バラク・H・オバマ」、青野利彦・倉科一希・宮多伊知郎編『現代のアメリカ政治外交史―「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』、ミネルヴァ書房、2020年、300—324頁。
* "The Promotion of Rules-based Order and the Japan-U.S. Alliance" in Michael J. Green ed., *Ironclad: Forging a New Future for America's Alliances*, Rowman & Littlefield, 2019, pp.97-112.
* “U.S. Technological Competition with China,” *Asia Pacific Review*, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.
* 「統合作戦構想と太平洋軍－マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著『アメリカ太平洋軍の研究－インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月、163－191頁。
* “U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence,” *Asia Pacific Review*, Vol. 25, No. 2 (2018), pp.16-44.
* “US Leadership in maritime Asia: a Japanese perspective on the rebalance and beyond,” in Michael Heazle and Andrew O’Neil eds., *China’s Rise and Australia-Japan-US Relations: Primacy and Leadership in East Asia*, Cheltenham: Elgar, 2018, pp.119-142.
* “Japan-U.S. Defense Cooperation in the Age of Defense Innovation: The Challenges and Opportunities of Strategic Competition with China,” *Strategic Japan Working Paper*, Center for Strategic and International Studies, April 2018.
* 「ニクソン政権によるアジア防衛戦略の検討、1969-1973年―中国の核戦力増強とアメリカの『核の傘』の実相」、菅英輝・初瀬龍平編著、『アメリカの核ガバナンス』、晃洋書房、2017年、29－53頁。
* 「揺れる米国のアジア太平洋戦略」、日本再建イニシアティヴ編、『現代日本の地政学―13のリスクと地経学の時代』、中公新書、2017年、13－32頁。
* 「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟―アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年4月、39－91頁。
* 『ヴェトナム戦争と同盟外交―英仏の外交とアメリカの選択、1964-1968年』、東京大学出版会、2009年9月。（2010年度日本アメリカ学会清水博賞）

（以上）